

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします **外部評価の結果**

事業所名 グループホームあしたりの家

日付 平成16年7月16日
特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会
LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員 介護実務経験4年
在宅介護経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
『ア・イ・ウ・エ・オ、カ・キ・ク・』歯切れの良い大声が、ホーム内に響きわたる。一人の職員のリードで入居者が、大きな口をあげ大きな声を出している。みんなで歌い、体操をする。楽しみながらのリハビリである。みんなの話し声もハキハキとして、入居者も職員も笑顔が絶えない。職員は入居者の要介護度が下がり、元気に生活して貰う事をケアの励みにしている。壁には入居者と職員が作った大判サイズの手芸アートが、あちこちに貼ってあり、共同作業をしている情景が脳裏に浮かぶ。材料はいつでも出来るよう用意されている。各部屋には大きな掃出し窓があり、開放されている。「これ！転落したり、どこかへ出て行ってしまいませんか？」と心配のあまり聞くと「案外出ませんよ。実際に座って日なたぼっこしたり、風にあたりながら寛いでいます。」「外に出る人はきまっています、自分が住んでいた家のように窓から出て、ホームの周りを歩いて、また玄関から帰って来ますよ。」と説明してくれた。「入居者同士が誘い合って近所を散歩する人もいますよ」私達の目の前で仲良くお出かけした。広い長い廊下を車椅子で、屋内マラソンしている人もいる。手をあげると、ニコッと応答してくれた。

表に目立たない職員の気配りと見守りによって、入居者のわがままな生活と、きちっとした生活が両立しているグループホームです。

特に改善の余地があると思われる。
落ち着いたゆとりのある空間があり、情緒的にも豊かなグループホームである。このような広い空間をまだ使いこなしていない気がする。一塊の集団ではなく、入居者の個々の生活パターンや行動をもっと工夫すれば、更に個人個人が生活をしているという実感のこもった住まいが見られるのではないかと思う。
高齢者が安心して住める場所をつくりたいという高い思いで作られたグループホームで、この町に一軒しかない貴重な存在なので、地域の人がもっと出入りしてくれて、高齢者との交流や痴呆の理解を高めていける地域の基点としての役割を備えて欲しい。
家族や地域のボランティアの人が協力して貰えるような働きかけも必要と思う。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か この町に、痴呆になっても安心して暮らせる場所を高齢者に提供して、お年寄りを大切にしたいというオーナーの思いに、管理者と職員も一致団結して、痴呆ケアの向上に全員が意欲を燃やしている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 共通スペース(屋内外共)と個室の広さや採光、通風等の環境や個室にトイレ等、みんなの住んでいたところの延長と言っても良いグループホームだと思う。特に掃き出し窓をつけたということは大胆な設計だったと思うが、これが現在の生活に生きており、良い住み心地を支えている大きな要素である。 共通スペースには大きな壁もあり、色々なものが貼られているが、入居者や職員の心を癒す効果をつくっている。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 自分で楽しんでおいしく食べられる工夫をしながら、いつまでも自分の口で噛んで食べられるよう職員が個々に気を配り介助している。薬もご飯と一緒に食べさせる事なく食後にきちっと服用させている。大声を出して口を動かす運動も、食べることにもつながっていると思う。一人ひとりの気持ちや察し、その人のペースに合わせたケアが見受けられた。 地元のクリニックとの連携も24時間体制であり、大声でみんなに声をかけて様子を見ながら元気づけている院長に遭遇した。排泄は自室にトイレがあるので、一人ひとりの排泄パターンに合わせたケアが出来ており、プライバシーの保護も万全である。		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 ホーム内での運営体制には問題ないし、オーナー、管理者と職員の連携もうまくいっている。家族へホーム全体の活動や情報を提供していく手段を考えて、家族とのつながりをもっと強力に出来るとケアの質の向上も一段と高まると思う。 地元との連携や交流は、地域のボランティアの力を利用することが出来ると効果的になると思うし、ホームの運営の助力にもなるので、今後の課題としておきたい。		